

平成30年度 奥入瀬せせらぎ体感プロジェクト 実施報告

平成31年3月

国土交通省 東北地方整備局 青森河川国道事務所

1. 実施概要

奥入瀬渓流の現状

奥入瀬渓流は、紅葉期など毎年たくさんの観光客が訪れる青森県を代表する観光地です。 しかし、渓流のすぐ近くを道路が通っている事から、観光シーズンには多くのマイカーや観光バスの走行・駐車により、『歩行者の安全性低下や渋滞の発生』 更には『車両の走行音により 「せせらぎの音」などの自然音がかき消されている』といった状況が見られます。



この状況を少しでも改善するために昨年度に続き「奥入瀬せせらぎ体感プロジェクト」を実施

【実施内容】

◆日 時

平成30年8月25日(土)~26日(日)

午前10時~午後2時

◆内容: ①広域迂回のお願い(運送業対象)

②通行自粛のお願い(全車両対象)

昨年度からの主な変更内容

◆日時: 9月上旬から多客期の夏休み期間中に変更

通行自粛時間1時間延長(13時→14時終了)

◆内容: 代替交通としてシャトルバス(料金800円)を運行

ボランティアガイドの滝コース追加

商品割引の拡充(休屋地区への展開)

広報の拡充(HP・SNS新設、パンフレット改良等) 仮設トイレ設置(銚子大滝付近、千筋の滝付近)

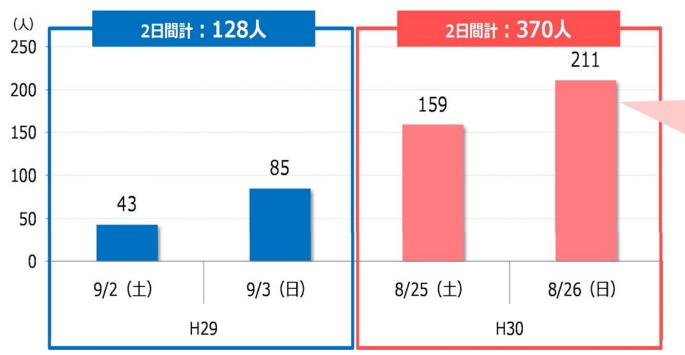




2. 平成30年度 奥入瀬せせらぎ体感プロジェクト結果概要

- 平成30年8月25日(土)・26日(日)に実施した奥入瀬せせらぎ体感プロジェクトの参加者数は2日間合計で370人、H29年度と比較すると参加者数は昨年度の2倍以上となっている。
- ■プロジェクト参加者へのヒアリング結果では、県外来訪者の割合が大きく増加、シャトルバス運行が参加 動機に影響、さらには昨年度に引き続きプロジェクトに対する高い評価が得られた。
- ■参加者以外の奥入瀬渓流来訪者のプロジェクトへの高い共感割合は維持できているものの、認知度 は昨年度に引き続き課題が残っている。
- ■一方、渓流区間において業務系車両削減はH29年度を上回る確認ができたものの、マイカー削減、 歩行者増加への影響は限定的であった。

▼実施日別奥入瀬せせらぎ体感プロジェクト参加者数



H30参加者ヒアリング結果 n=118		
昨年からの継続参加	継続参加 5.1%	初めて参加 85.6%
居住地	県内 33.1%	県外 65.3%
宿泊・日帰り	宿泊 62.7%	日帰り 35.6%
県内での主な交通手段	県内客)自家用車 92.3% 県外客)レンタカー 36.4%	

参考) 奥入瀬渓流全体散策者に対する参加者数割合の推定 通行自粛時間帯(2日間)の銚子大滝付近歩行者数:1,087人

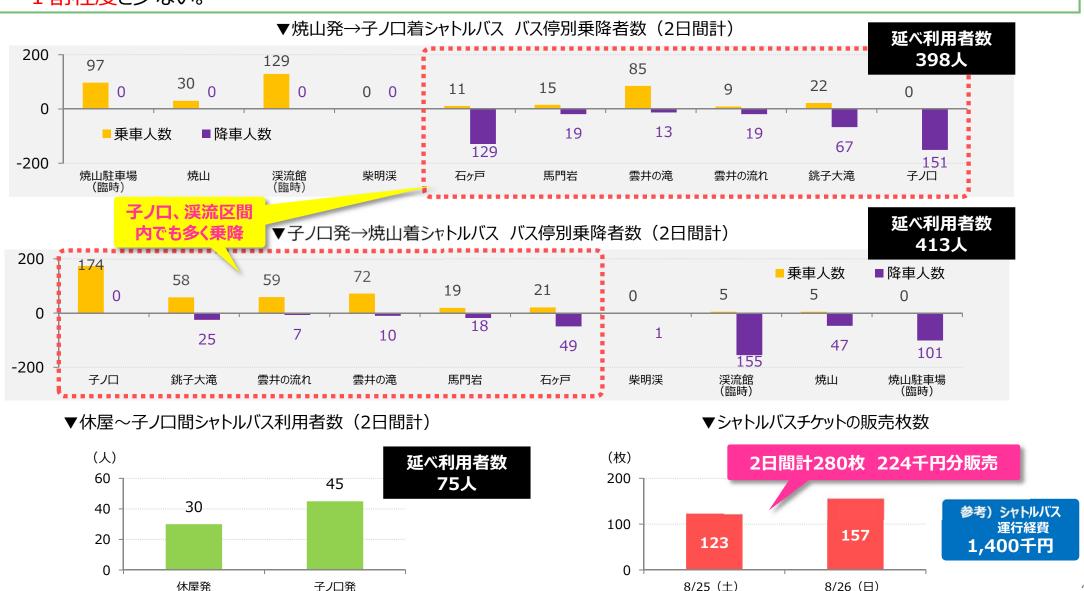
これらを基に推計すると・・

プロジェクト参加者数:370人

370÷1,087 = 34%

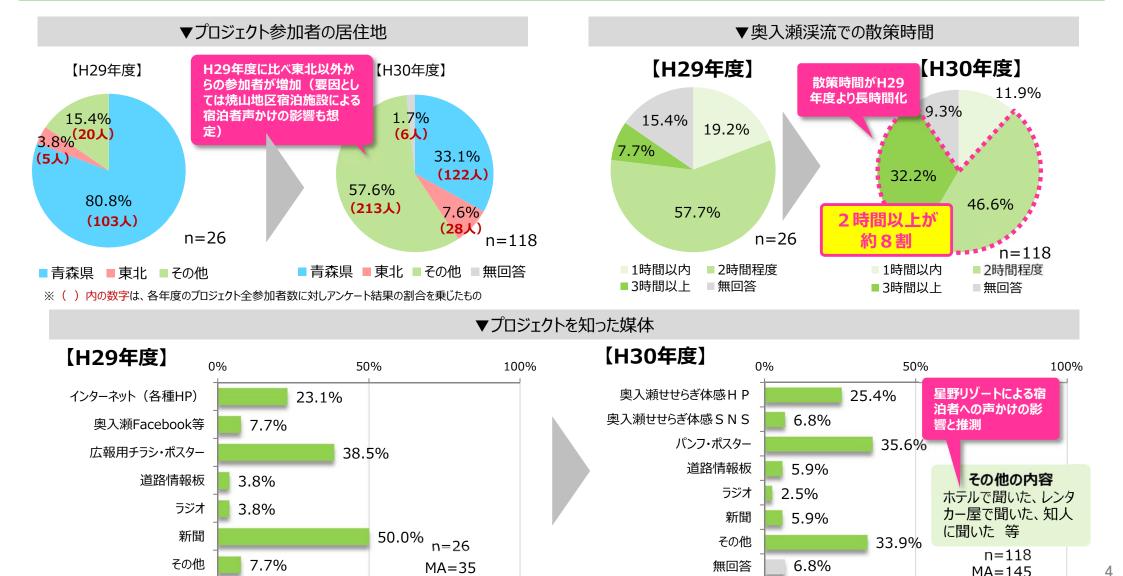
3. シャトルバス利用状況

- ■シャトルバスチケット販売数は2日間で計280枚(小学生以下無料)であり、シャトルバス全体の延べ利用者数は 886人であった。
- ■焼山~子ノ口間は石ケ戸~銚子大滝の渓流区間で乗降も見られ、子ノ口~休屋間の利用は焼山~子ノ口間の 1割程度と少ない。



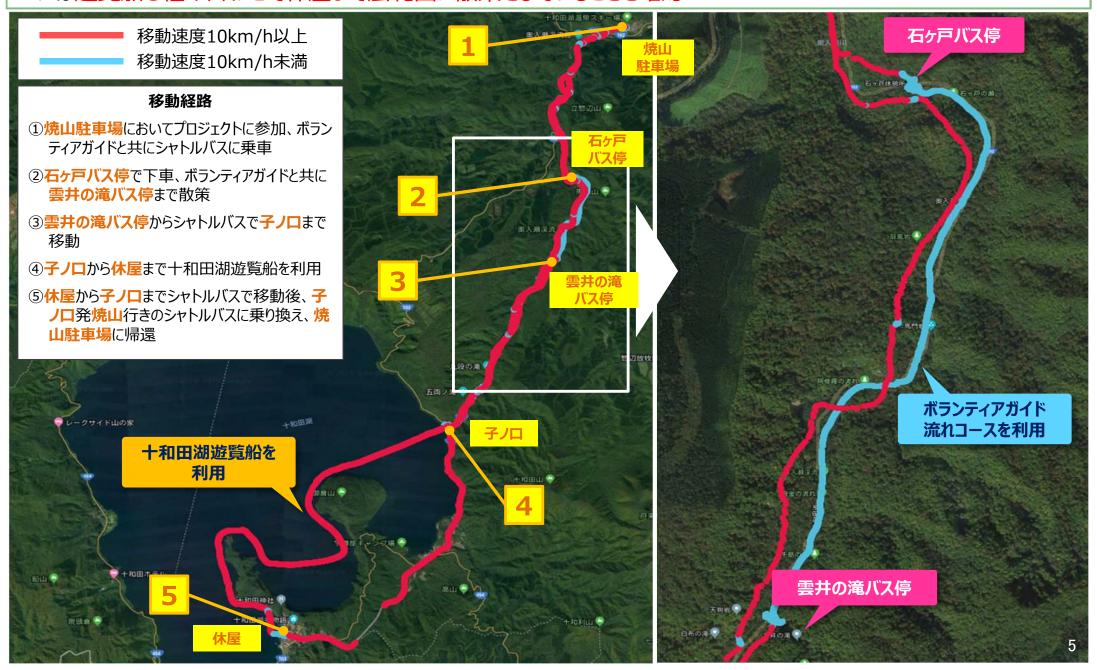
4. 奥入瀬せせらぎ体感プロジェクト参加者の評価

- ■プロジェクトへの参加者は県外が5割以上を占め、H29年度と比較し県外来訪者が大きく増加、また、参加者の奥入瀬渓流・十和田湖の散策も長時間化(3時間以上割合:約8%→約32%)
- ■プロジェクトの認知媒体は、「パンフ・ポスター」が最多、次いで「HP」、「その他(ホテルで聞いた等が多い)」、H29年度では新聞が減少、HPは若干増加



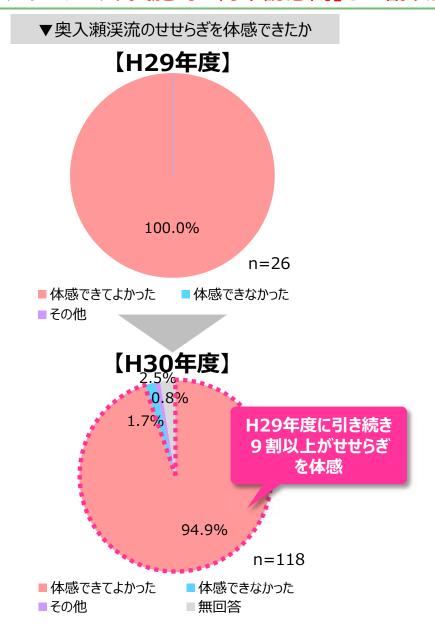
参考)プロジェクト参加者は「遊覧船を利用し、休屋までの周遊」

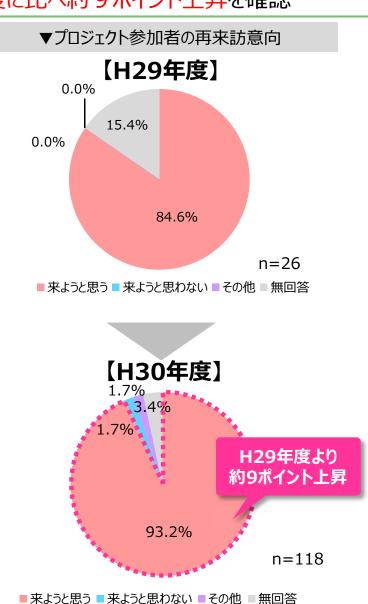
■参加者の一部に携帯を協力依頼したGPSロガー(1秒毎データ取得)の結果をみると、シャトルバス、徒歩、さらには<mark>遊覧船も組み合わせて休屋まで広範囲に散策をしていることを確認</mark>



5. プロジェクト参加者の取り組みに対する評価

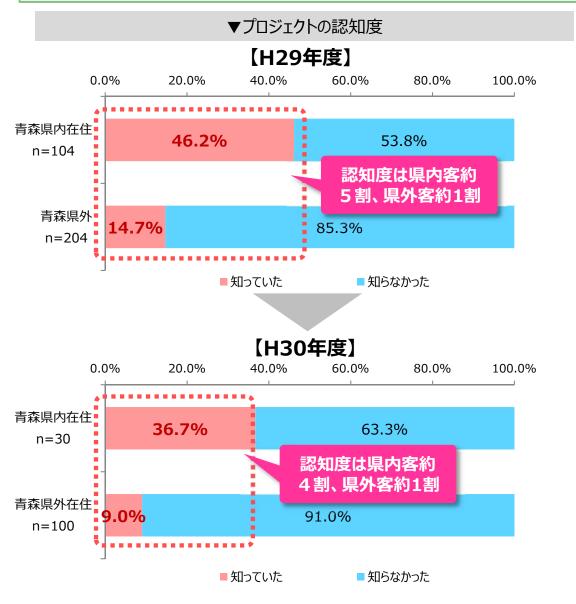
- せせらぎ体感プロジェクト参加者の「せせらぎを体感できた」割合は 9 割以上と高く、H29年度に引き続き高い評価 を確認
- ■さらには、「プロジェクト実施時の再来訪意向」も9割以上と高く、H29年度に比べ約9ポイント上昇を確認

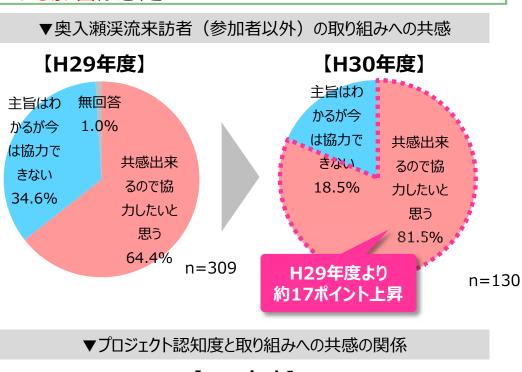


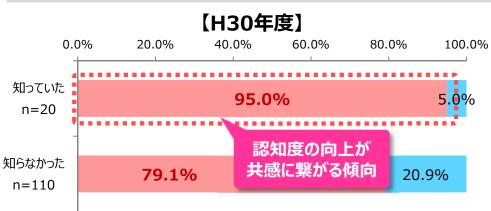


6. 奥入瀬渓流来訪者のプロジェクト認知度、評価

- ■せせらぎ体感プロジェクトの<mark>認知度は、県内客で約4割、県外客で約1割、H29年度と同じく県外客が低い状況</mark> (H29年度からの減少要因は、プロジェクトを認知した来訪者の参加割合が高まったと推測)
- ■参加者以外の奥入瀬来訪者(パンフレットを配布しつつヒアリング)についても「プロジェクトに共感する」割合が高まっており、シャトルバス等の施策拡充、パンフレット内容充実による影響が想定





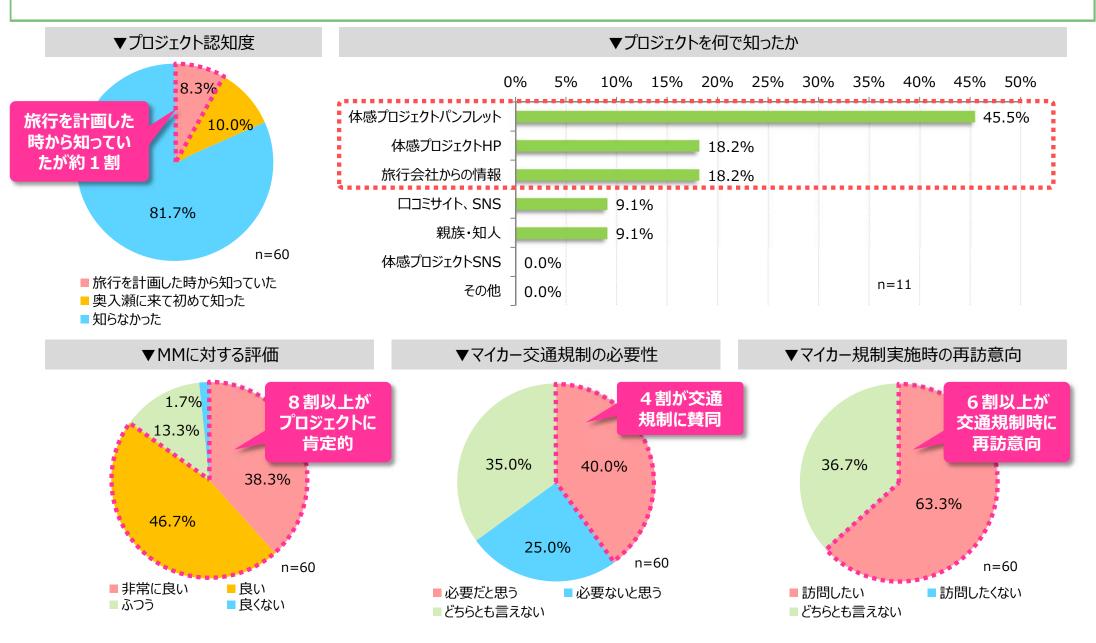


■ 主旨はわかるが今は協力できない

■共感出来るので協力したいと思う

7. 外国人旅行者(参加者以外)のプロジェクト認知度、評価

- ■外国人旅行者(参加者以外)のせせらぎ体感プロジェクトの<mark>認知度は約1割</mark>、情報媒体はパンフレット、HP、旅行会社からの情報
- ■プロジェクトに対しては8割以上が良いと評価、交通規制にも4割が必要と賛同、規制実施時には6割以上が再訪意向



8. 新たな取り組み(シャトルバス・仮設トイレ)への評価

■シャトルバス運行が参加者半数以上の参加動機となり、8割以上がシャトルバス運行に対し満足

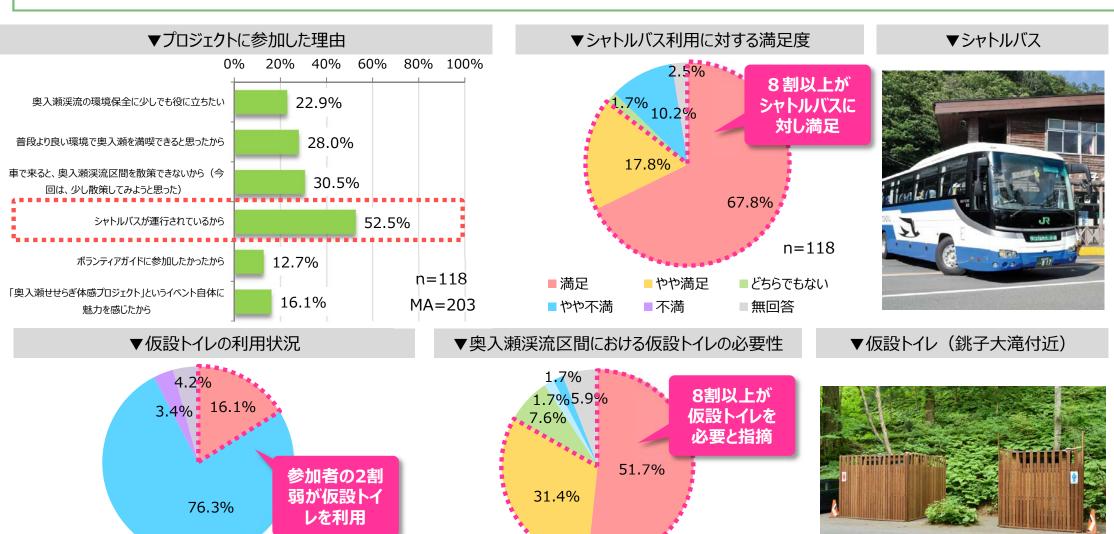
n = 118

■利用していない

■今回、利用した

■ 設置されているのが分からなかった ■ 無回答

■8月の強化月間期間中は、銚子大滝付近、千筋の滝付近の2か所に仮設トイレを設置、プロジェクト参加者ヒアリング では2割弱が仮設トイレを利用し、8割以上の方が必要との声



■必要

■不要

■どちらでもない

n = 118

どちらかというと必要

■どちらかというと不要

■無回答

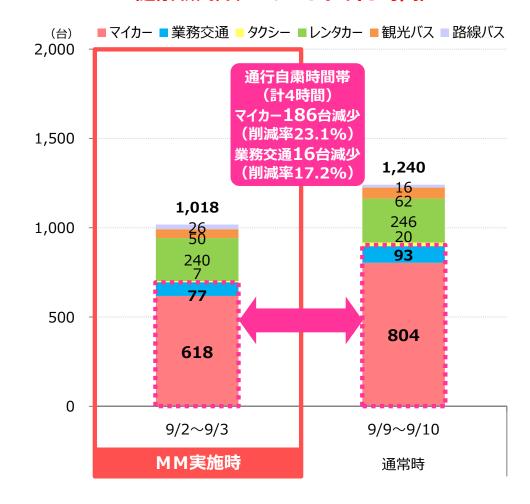
9. 奥入瀬渓流区間の自動車通行量

- ■渓流区間12 h マイカー通行量は、MM実施時は9/1-2通常時より133台少ない(削減率12.7%)状況が確認、一方、H29年度のマイカー通行量削減状況(186台減少、削減率23.1%)を上回る削減効果の発現には至っていない。
- ■業務交通は、MM実施時に大きく減少(43台減少、削減率37.4%)し広域迂回の効果が伺え、H29年度を<mark>約20ポイント上回る業務交通削減効果(削減率:17.2%→37.4%)が発現している。</mark>

▼H30 惣辺交差点子ノ口断面 通行自粛時間帯交通量 2日間合計 (通行自粛時間帯:10~14時 計4時間)

■マイカー ■業務交通 ■タクシー ■レンタカー ■観光バス ■路線バス (台) 2,000 通行自粛時間帯 (計4時間) 1,596 マイカー133台減少 1,506 24 (削減率12.7%) 1,500 55 59 業務交通43台減少 327 (削減率37.4%) 24 410 115 9 1,000 72 1,051 500 918 0 8/25~8/26 $9/1 \sim 9/2$ MM実施時 通常時

▼H29 惣辺交差点子ノ口断面 通行自粛時間帯交通量 2日間合計 (通行自粛時間帯:10~13時 計3時間)



10. 奥入瀬渓流区間の歩行者交通量

- ■渓流区間内の歩行者交通量は、MM実施時は9/1-2通常時を石ヶ戸、銚子大滝両断面で若干上回る状況である。
- ■H29年度の歩行者交通量状況と比較すると、石ケ戸断面では増加量縮小(315人増→13人増)、一方で銚子大滝断面(406人減→97人増)では増加に転じる結果となっている。

▼**H30** 通行自粛時間帯・その他時間帯別 歩行者・自転車通行量 2日間合計 (通行自粛時間帯: 10~14時 計4時間)



■その他時間帯歩行者 その他時間帯自転車 ■通行自粛時間帯自転車 ■通行自粛時間帯歩行者 (台) 6000 4,294 3,743 通行自粛時間帯中 84 4000 39 (計4時間) 1,939 1,590 歩行者97人増加 98 2000 38 2173 2076 0

 $9/1 \sim 9/2$

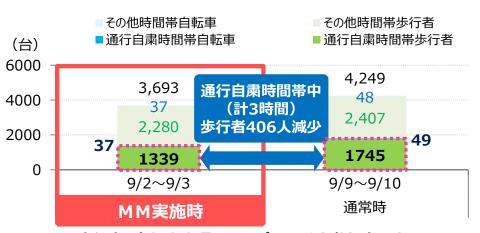
通常時

8/25~8/26

MM実施時

▼**H29** 通行自粛時間帯・その他時間帯別 歩行者・自転車通行量 2日間合計 (通行自粛時間帯: 10~13時 計3時間)

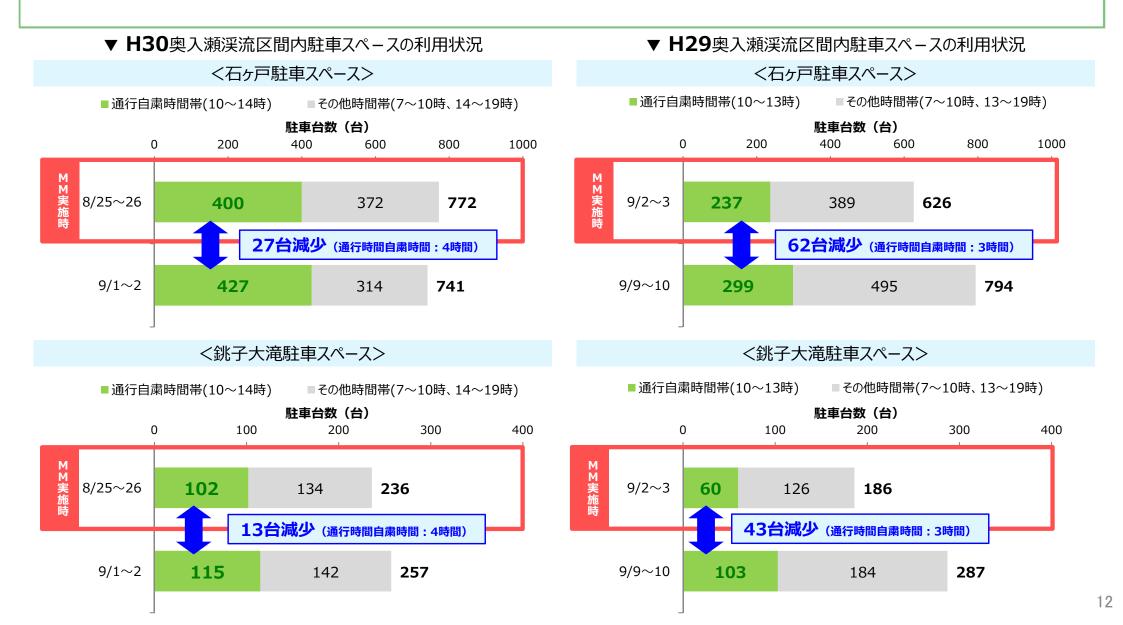




※歩行者・自転車交通量にはプロジェクト参加者も含む

11. 奥入瀬渓流区間の駐車車両

- ■奥入瀬渓流区間内の駐車車両状況は、石ケ戸駐車スペース、銚子大滝駐車スペースともに通行自粛時間帯は MM実施時が最少の駐車台数となっている。
- H29年度と比較すると、石ケ戸、銚子大滝駐車スペースともに駐車台数減少量は縮小している結果となっている。



12. 奥入瀬渓流区間の音環境

- ■「阿修羅の流れ」・「千筋の滝付近」ともに、通行自粛時間帯は自然環境音の割合が高まっている。
- ■特に、流れが穏やかな「千筋の滝付近」での自然環境音割合の高まりが顕著

